

親子でエンジョイ！ 日帰りアウトドア



平成30年7月8日

活動報告書

7月8日(日)

綺麗な青空のもと、『親子でエンジョイ！日帰りアウトドア～もしもの時の防災編～』を開催しました。11家族27名の方にご参加いただき、ブッシュクラフトを楽しみました。

ブッシュクラフトとは、少ない道具を使って『野外で生活する知恵や手段』のことを指します。この日はブッシュクラフトキットを使って、もっとも基本的な火起こしにチャレンジします。少しレクリエーションで体を動かしてから、ブッシュクラフトのスタートです。まずはブッシュクラフトキットの内容を確認しましょう。ナイフなどの用途がハッキリしているものから、ファイヤーキャンディーやメタルマッチなど、見ただけでは使い方がわからないものまで。中身を確認したら、さっそくメタルマッチを使ってみます。



『メタルマッチ』はマグネシウムと摩擦を利用して火種を作る道具です。火傷しないように軍手をつけて、『ストライカー』と呼ばれる道具でこすれば、明るいオレンジ色の火花が輝きます。その様子を見た皆さんからは、「うわっ、火花！」「いっぱい出た！」と驚きと喜びの声が上がりました。

大きな火花を大量にするためには、色々なコツがあります。スピードを上げてみたり、角度を変えてみたり…メタルマッチを使う子どもたちの様子を見ながら、お父さんお母さんからアドバイスや提案が出てきます。では、火花を出せるようになったところで、実際に着火してみましょう。



最初の着火材は『鳥の巣』と呼ばれるもの。より合わさっている麻紐をほぐし、ふんわりと丸めたアイテムです。この『鳥の巣』めがけて火花を散らし、火をつけてみます。まずは見本ということで、職員が行うと…成功！一気に燃え上がる『鳥の巣』を見て、参加者の皆さんからは思わず拍手が。実際に火がつく場面を見れば、「やってみよう」と思うものです。皆さん少し早足で自分たちのスペースに戻り、さっそくチャレンジ。狙った場所に火花が行かなかったり、『鳥の巣』が転がって行ってしまったり…苦戦はしつつも、なんとか着火に成功！



続いて、美味しそうなアメ玉のような『ファイヤーキャンディー』、松脂をしみ込ませた『ティンダーウッド』など、様々な着火材を試してみます。それぞれ使い方や燃え方に特徴があり、濡れても火がつくもの、虫よけの効果があるもの…状況に応じて道具を使いこなせてこそ、立派な『ブッシュクラフター』と言えるでしょう。

もし、適当な着火材が無くて大丈夫。ナイフを使って『フェザースティック』を作りましょう。これさえあれば、着火材がなくても火起こしが可能です！



まずはバトニング。ナイフを薪に当て、ナイフの背中を薪で叩きます。ナイフはどんどん薪に食い込んでいき、やがて真っ二つに。太いものより細いものが燃えやすいのです。だから麻紐も細かくほぐすわけですね。細くなった薪を、さらに細く長く削り、何本も細い“羽”を作ります。多ければ多いほど、着火の成功率は上がります。



ここでお昼休憩です。皆さん夢中になって火起こしをしていましたが、時間が経てばお腹は減るもの。「あ、もうお昼の時間か」…そんな声も聞こえてきました。午後に向けてエネルギーを補給しましょう。暑いので、水分補給も忘れずに。午後の開始時間は決まっていますが、お父さんたちの中には開始前にフェザースティック作りやバトニングを練習する方も。少しのんびりと体を休めたあとは、いよいよ午後の部のスタートです。



午後の部は、着火から火を育てます。今までは小さな火を灯して終了でしたが、その火では暖を取ることも料理をすることもできません。火を大きく育て、『火力』を維持する必要があります。午前中に練習した方法を用いて、火を大きく育てます。着火まではスムーズでも、火を維持するのはまた違うテクニックが必要です。小さくなっていく炎を見つめながら、様々な手段で火を育てます。



大きく育った火を使って、焼きマシュマロのサプライズ！ 自分たちでいちあから育てた火を使って焼くマシュマロは、口の中で溶けるほど熱々。2枚のクラッカーで挟んで、口いっぱい頬張ります。これなら溶けたマシュマロも、垂らさずに食べることができますね。煙と戦いながら、甘いマシュマロを楽しみます。



マシュマロを食べたあとは、様々な方法の火起こしを体験しました。火打石や懐中電灯の反射材を利用したもの、ビニールやペットボトルに水を入れて太陽光を集める方法など。村のアクティビティの1つである『ヒモギリ式』も、スタッフ3人で披露しました。人は昔から、様々な方法で火をつけてきたことがわかります。

便利な世の中になり、『火』は姿を消しつつあります。『オール電化』という言葉が登場してからずいぶん経ちました。炎よりも電気の方が安全で、便利で、使いやすいかもしれません。

もし電気がない場所に行ったら、災害でガスも電気も止まってしまったら。そんな時こそ、ブッシュクラフトの出番です。参加していただいた『ブッシュクラフター』の皆さんが、この体験を活かして火を起こしてくれることでしょう。村では『もしも』に備えた事業を他にも行っています。また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

文責：大谷